

# 施工簡単マニュアル

本製品は ポリカーボネート対応商品となります。アクリル等には使用出来ません。

◎ ポリカーボネート (PC) 元素記号 × アクリル (PMMA)

(使用上の説明)

1. 作業前にランプの表面清掃します。
2. 自動車の塗装が誤って研磨される事を防止する為に、ヘッドライトの周囲の養生マスキングをお勧め致します。

**溶剤が塗装面に付着しますと影響が出る場合がありますので 十分気を付けて作業お願いします。**

3. ヘッドランプの研磨方法。

ヘッドライトの再生のキーポイントは研磨作業です！研磨作業で仕上の違いが出ますので御注意下さい。

純正のハードコート除去には# 180からの研磨作業をお勧めします。

# 180は ドライ状態で撫ぜる様に全体をムラ無く研磨して行きます。黄色の研磨粉が出て来ます。

# 240からはウエットで研磨開始します。黄色削り粉が白に変る事を確認して下さい。

ヘッドライトの表面が均一で滑らかな様に研磨して下さい。

(参考) 180-240-320-400-600-800-1000-1200-1500-2000-2500-3000

800番までは 軽めに研磨して下さい。力を入れ過ぎますとペーパー目が消せない場合があります。

**番手を交換する前に必ず水拭きして下さい。乾燥時に 縞模様 が出る場合は研磨不足です。**

4. 研磨作業終了後、ヘッドライトの水分を綺麗に拭き取って下さい。

研磨作業が完了しましたら 脱脂剤等で表面の清掃をお願い致します。(エタノール消毒剤がお勧めです)

ドライヤー等で完全に乾燥させて下さい。埃が付いていないかを ご確認下さい。

**乾燥不足の場合 噴霧時にレンズが白く濁る場合があります。**

**また、脱脂不足の場合 施工後クラック等が発生する場合がございます。**

5. 噴霧作業 **\*厳守事項\***

**噴霧作業を行う場合は、必ず 換気の良い場所、火気厳禁 マスク 眼鏡着用で作業お願いします。**

**重大事故を起こす場合がございます。十分気を付けて作業お願い致します。**

専用ポットに溶剤を入れます。通常溶剂量は 軽自動車20cc～ 普通車 30cc～となります。

ポット内の溶剤が残っていても 溶剤蒸気が出なくなる場合がありますので

安定した溶剤蒸気を出す為に 10～15cc余分にに入れて下さい。

**ハンディーLEDライト等にてレンズを照らすと ペーパー目がハッキリ見えます。**

レンズに対して 若干斜めの位置に目線を置き 溶剤蒸気でペーパー目を消す様にゆっくり噴霧して行きます。

速乾性となっておりますが 施工後5分以内は 洗車等はお控え下さい。

また 施工後 ムラ 噴霧忘れ等があった場合 再度 噴霧作業を行なっても構いません。

\*作業が終了しましたら 直ぐにポットの電源 若しくはコンセントから外し

ノズルも変形防止の為 外し キャップを軽く乗せて ポットを冷やして下さい。

空焚きには十分気を付けて下さい。火災の原因になります。

\*ポット内に残った溶剤は 新品溶剤ビンに戻しますと支障が出てしまう事も考えられますので

冷えた事を確認して 残量管理ボトルに移して下さい。

連続した作業の場合 残量溶剤が冷えた事を確認して 液剤を追加して作業は可能です。

熱いまま溶剤を追加すると 噴出し火傷等起こす場合がありますので 御注意下さい。

\*透明度が回復し 今まで見えなかった内側の劣化クラックが目立つ場合があります。

## \* 注意 \*

\* ペーパー掛けを簡素化した場合 噴霧作業完了時間経過後に

光沢不足 表面がガサガサ状態 又 表面にクラック（メロン状）が入る場合が御座います。

原因は 純正のハードコートが完全に除去されていない場合に症状がでます。

また 作業以前にクリアー塗装等を行なった事の有るレンズ研磨は十分に行ってください。

クリアー塗装成分が深く浸透している場合 完成数日後にメロン状のクラックが入る場合があります。

クラック等が入った場合 最初から作業をやり直して下さい。何度でもやり直しが出来ます。

\* 脱脂不足によるクラック発生

\* 研磨作業後の脱脂不足 脱脂溶剤も原因の一つと考えられます。

\* 脱脂する場合、パーツクリーナー アルカリ性洗剤 シリコンオフ等の使用はお控え下さい。

\* ウェス ペーパータオル等に吹掛けてレンズを拭き上げた場合、完全に脱脂出来ていない場合も考えられます。

\* 脱脂する場合は、レンズ全体に多めに吹掛けて下さい。（流れ落ちる位）（2回作業繰り返しますと効果的）

\* 拭き上げ作業は、上から下への一方方向にて拭き上げて ドライヤー等で完全に乾燥させて下さい。

### （機械研削の予防策）

サンダー等でヘッドライトを研磨するときには、サンダーの回転数 車の塗装に影響の無い様に注意してください

噴霧作業の注意事項

### 防塵マスク 防塵グラス グローブ等の着用をお願い致します。

ヘッドライトの大きさによって 溶剤使用量が異なりますので御注意下さい。

片側のライト使用料は 軽自動車と大型普通車では容量が異なりますので御注意下さい。

目安としましては 20ml～60mlの溶剤を車種に合わせてポットに注入して下さい。

ポットにスイッチを入れると、約3～5分位経過後、ガスが出てきます。（季節 外気温で異なります）

ライトから 1～2cm離し 噴霧開始して下さい。均一な速度を保ちながら噴霧して下さい。

傾け過ぎ ポットを振り過ぎますとノズル先端に冷えて蓄積されている溶剤が垂れ落ちる事があります。

ポットを出来るだけ立てたままの状態を使用する事をお勧め致します。

\* 完成乾燥後に レンズにハードコート剤等を塗ると化学反応を起し 白くなる場合がありますので

使用はお控え下さい。 不明な点等御座いましたら 御連絡お願い致します。